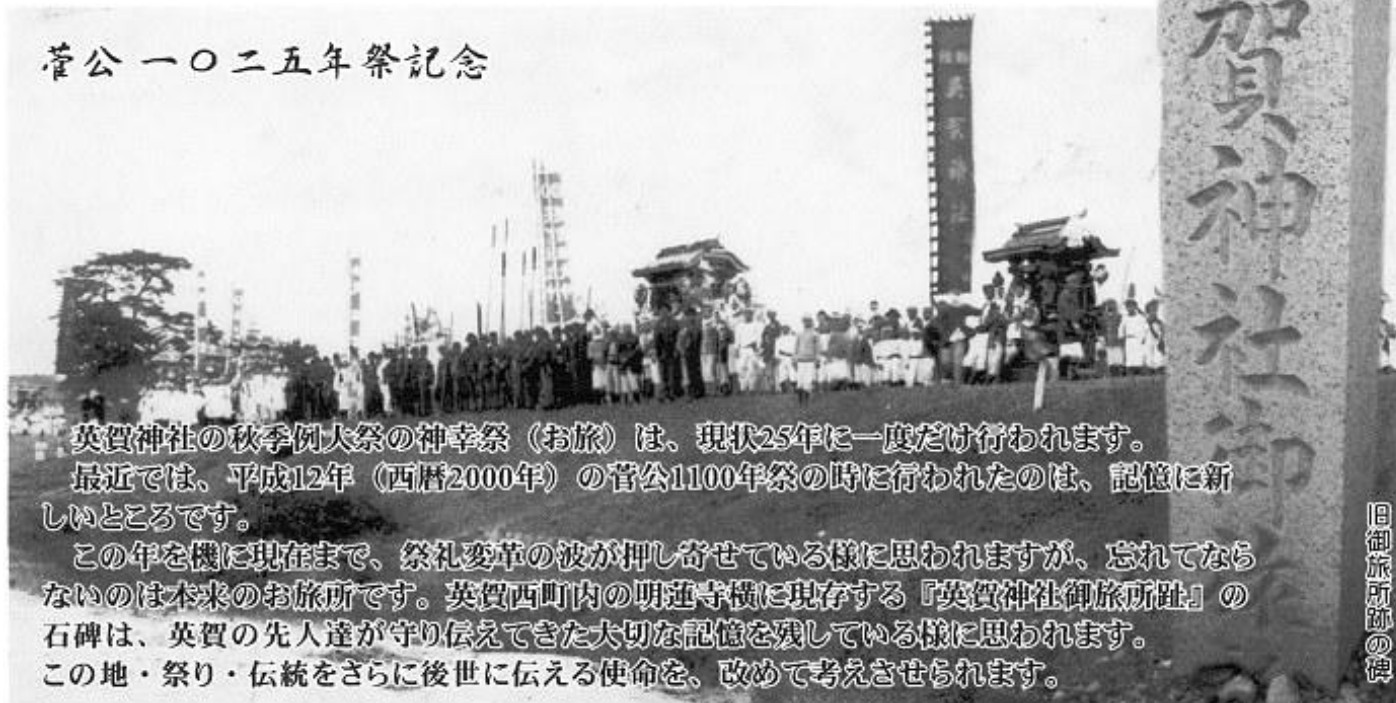


# お旅探訪シリーズ Vol.1 英賀神社

(播州各地の神社・祭りはあらゆるメディアで紹介されています。  
ここでは各神社の『神幸祭 (お旅)』を紹介していきます。)

菅公一〇二五年祭記念



旧御旅所跡の碑

英賀神社の秋季例大祭の神幸祭 (お旅) は、現状25年に一度だけ行われます。  
最近では、平成12年 (西暦2000年) の菅公1100年祭の時に行われたのは、記憶に新しいところですが。

この年を機に現在まで、祭礼変革の波が押し寄せている様に思われますが、忘れてならないのは本来のお旅所です。英賀西町内の明蓮寺横に現存する『英賀神社御旅所跡』の石碑は、英賀の先人達が守り伝えてきた大切な記憶を残している様に思われます。この地・祭り・伝統をさらに後世に伝える使命を、改めて考えさせられます。

## 英賀神社夏祭り御神燈について

英賀神社宮司  
木村尚樹

少し早いですが、あと約3ヶ月で弥栄会がご奉仕させて頂いている夏祭りがやってきます。  
今回は、子供達中心に作られている御神燈の歴史について、木村宮司様よりコメントを頂きました。

英賀神社夏祭り (例年7月24日開催) においては、沢山の御神燈が飾られ、色鮮やかに点灯され境内を幻想的に照らし出します。

御神燈とはご神前を照らす明かりの事で、神様に明かりをお供えする意味もあります。

民子小学生の児童が、書道・絵画を思い思いに描き、木枠に貼り付けて御神燈を作成します。

いつから始まったものかは定かではありませんが、ご高齢の長老方に何れも記憶に残っているようで、戦前から続いているものと推測されます。

また高町稲荷神社、英賀西明神社においても祭礼時に同様の御神燈が奉納されています。

近年は、民子有志の方々が多大に尽力され、永代よりの歴史が盛衰の中、引き継がれておりました。

平成18年よりは、弥栄会の協力により灯籠の数も増え、翌19年には「英賀ナリエ」と称し、1200個もの灯籠を作成、境内一杯に掛け並べるようになりました。

未来永劫、子供達の色とりどりの夢や願いを燈し、

夏の夜の英賀神社を燈し、

民子の生活を燈し続けてくれる事でしょう。

